笠岡市教育委員会 11月定例会 会議録

1 開会年月日	令和6年11月15日(金) 午後3時00分
2 場 所	笠岡市教育委員会会議室
3 出席委員等の氏名	教育長 大重 義法 委員 藤谷 幸弘 東山 琴子 西崎 倫子 杉本 和歳
4 欠席委員の氏名	なし
5 会議に出席した者の職・氏名	教育部長 森山 一成 教育総務課長 松尾 千鶴 学校教育課長 後藤 嘉孝 生涯学習課長 古宮 奈美子 スポーツ推進課長 土屋 武之 給食センター所長 山本 英司 教育総務課課長補佐 藤代 幸弘
6 付議案件及び議決状況	協議報告事項 別議案紙のとおり
7 会議の状況	別紙のとおり
8 閉会年月日	令和6年11月15日(金) 午後4時21分

議事録署名委員 教育委員 藤 谷 幸 弘

教育委員 西 崎 倫 子

会議録を調製した職員 松 尾 千 鶴

会 議 の 状 況

1 開 会 （大重教育長）

2 前回議事録（定例会）の報告 （藤代課長補佐）

前回令和6年10月定例会の会議録を報告します。10月定例会は、令和6年10月18日（金）午後3時44分から、教育委員会会議室で開催されました。出席者は東山委員、西崎委員、杉本委員の出席をいただきました。審議案件はありませんでした。閉会は同日の午後4時35分でした。

3 教育長の報告（挨拶）

改めまして、皆さんこんにちは。この後、今日の議題にも上がっていますが、学校規模適正化の状況について話をさせていただきたいと思っています。学校規模の適正化と言うと、どうしても学校を統合していくという話、これは当然せざるを得ない話なのですが、負のイメージというものがどうしても出てきます。我々としては、将来の児童生徒数をきちんと予測した上で、将来を見通した上で、持続可能で特色ある教育を行っていく必要があるから、こういうことを考えているということで、方向性を説明させていただいています。それぞれの地域に行くと、「それはそうだよね」ということで大体理解いただくようにはなるのですが、その中でよく意見をいただくのが、学校自体をどういう風に設置していくのかということや、そこの教育環境をどうするのかということについては、分かるのだけれども、そこでどういう教育をやっていくのかという部分がすごく大事だという話なのです。今までの施設一体型小中一貫校については、施設一体型にすることによってこういったメリットがあるということは、具体的な話をする事ができていた部分はありますが、では今度我々が示しているものについては、そこはどうなのかという話なのです。施設一体型にしなくても小中一貫教育は既にやっているのでも、効果が上がっている部分は、具体的に話していますが、更なる延長線上で、本当に未来のことをきちんと踏まえた上で、色々なことを先取りしていくような、打って出ていくような先駆的な教育をやっていくということを具体的に示していくことが必要だと思っています。そういった中で、私が教育長に着任して以来、子ども達が先々の社会を生き抜いていくためには、自分で考えて自分で判断をし、他者と協働しながら課題解決をしていく力をつけていくことが必要だし、地域探究学習を始め、地域を学びのフィールドにしていく教育をダイナミックにとにかくやっていきたいと話しています。体制整備に期待してもらえるような打ち出しをしていくことは本当に大事な観点だと、改めて地域に入らせていただいて感じた次第です。この後色々な議題があり、具体的な話もさせていただくのですが、先々の笠岡市の教育をどうしていくのかという部分が、夢が語れてワクワクできるような

仕掛けというものをしっかりやらないといけないと思っているので、そういった部分でも、この後忌憚のない意見をいただけたらと思っています。

4 議事録署名人の指名（藤谷委員，西崎委員）

5 協議・報告

（1）令和7年度小学校陸上記録会について（学校教育課）

後藤課長 資料協1-1をご覧ください。令和7年度笠岡市内学童陸上運動記録会についてですが、小学校の校長会の方から、今後の運営について課題が大きいことから中止の方向性の意見が出ています。陸上競技会を運営していくことへの課題として、2点挙がってきています。まず1点目は、記録会を行うための十分な練習時間が確保できない状況にあるということです。暑さ指数が31を超えると、基本的には外での運動を控えるということになっていますが、そういう日が9月・10月辺りに続いていて、体育の授業や放課後練習ができない状況であると、今年度の陸上記録会が10月22日に開催され、10月8日にエントリーということでしたが、今年についてはエントリーするまでに練習は正直1回ぐらいしかできなかったと学校は言っています。本来なら9月の中旬・終わりぐらいから練習をしていって記録会に臨んでいくのですが、10月22日の大会までに十分な練習ができない状況であると、皆さんが10月18日に笠岡小学校、それから神島外小学校に学校訪問に行ってくださいった時も、暑さ指数が31を超えていたので、子ども達は運動場で遊ぶことができなかったということを感じておられるでしょうか。22日の直前ぐらいまでそういう日が続いていて、十分に練習できないまま今年度は開催したということもあります。もう1点が教職員不足ということで、児童数減少に伴い教員数も減少している中で、大会運営のための役員が確保できない状況にあります。大体大会運営をするためには、役員の数は35名程度必要であるということです。学校教育課からも小学校籍2名がこの日は参加したのですが、平日なので学校は普通にあり、その中で、小学校35人運営委員を出しながらこの大会を行っていくというのは、正直厳しい状況であるということです。事務局としても、今後大会運営というものは厳しいとっていて、来年度以降の市内の学童の陸上運動記録会については中止という形にせざるを得ないと考えていますが、意見の方をいただけたらと思います。

大重教育長 それでは、委員の皆様方からご質問・ご意見があれば、お願いします。

杉本委員 参考までに、他の市町村は中止というのはどれぐらいされているのですか。

後藤課長 正直、まだ県内で陸上記録会について中止というような発表をしているのは少なく、今のところ、こちらの方で把握しているのは、玉野市と岡山市の方は聞いています。近隣で言うと、井原市・浅口市等は中止にしてはいないという状況です。

大重教育長 倉敷市は何か聞いていますか。

後藤課長 倉敷市は私が把握している限りでは、中止ではないと聞いています。

大重教育長 検討はそれぞれされているということですか。そういった状況ですが、いかがでしょうか。

杉本委員 できているのであったらどういう状況でできているのかというのが多分あると思うのです。ただ、我慢して頑張っているという状況も多分あると思うので、参考になるものがあつたら良いのかなとも思いつつも、今理由ははっきりと認識したので、この流れでいって良いのかと思っています。

大重教育長 学校の規模的な部分や職員数という部分等、笠岡ならではのという部分もいくらかあるのかとは思いますが、その辺は事務局の方としてはいかがですか。

後藤課長 どんどん市内の学校が小規模化してくるので、今後これが増えていけばまた変わってくるのですが、この先、適正化がどんどん進んでいく中で職員数が減っていくということもあるので、大会運営の人数は変わらないということになっていきます。ここは正直、職員数は厳しいということと、暑さについて小学校の先生が言われていたのは、自分はこの大会が本当に好きなのだが、この記録会というのはただすれば良い訳ではなくて、練習をしっかりと積んだ上で記録をそこで伸ばしていくというのが本来の目的なのだけれども、練習をせずにぶっつけ本番でただ競い合うみたいな感じになっていっているため、本来の記録会の目的みたいなところが達成できないので、これをやることというのはどうなのかとも言われていました。

藤谷委員 各市町村においては、それぞれの市町村の置かれている立場や状況が違うので、問題も違うかも分かりませんが、県の競技会を主催している側からの意見、例えばその時期が今は、9月・10月は非常に暑いので県の大会を少しずらすことを検討している等、そういう県からの情報というものは何かあるのですか。

後藤課長 こちらの方もそこら辺を確認したのですが、今のところは、県の大会はそこは動かせないということです。今後色々な課題が出てきて、県の方がこの日にちを後ろにずらすことができれば、また変わってくるのでしようけれども、ちょうどこの時期は行事が盛りだくさんなので、多分県の方

もこの日を後ろにずらすことによって、今度は違う行事がずれてくるということもあるので、今の日程を動かさないのではないかというのがこちらの推測です。

東山委員 先ほどの他市町について調べてみたのですが、井原市の場合は、令和5年から6年生全員参加で陸上記録会を、井原市の陸上競技場でされていると書かれています。こういった時は先生が付き添われるのか、どういう風にされるのか、先ほど言われていた一部の子が参加する笠岡の大会よりも、こういった全員参加というのは公平性を保てるなども感じたりして、色々な見方で考えていけば良いのかなとも捉えました。ちなみに浅口市も里庄町と合同で、6年生全員参加ということで、どちらも6年生が全員参加というスタイルを取られているというところが、何かそちらの市の方も思いがあつてのことなのかというところがあつたので、少し聞かれてみても良いのかなと感じました。やり方については、先生方の負担が大きくて持続不可能な状態に今はもうなっているので、今の形では残すべきではないと考えます。一番に大事に考えなければいけないのは、子ども達の安全・安心な教育の環境というところが一番大切だと思います。でも、だからと言って無理だというのはいけなくて、子ども達にとって必要な教育や運動も提供しなければいけない、どういう形にしていくのだろうと考えた時に、先日ちょうど研修会で言っていたのですが、部活動の地域移行ではなくて地域展開という捉え方で考えた時に、中学生の部活動に関しては3年間に区切ったというものではなくて、地域全体・市全体のスポーツ・文化を考えて、その中に中学生をはめ込むみたいな感じの見方をして考えるという、そこに私はすごくヒントがあるのではないかとちょうど結びついたのです。そこに小学生のこういったこと、あとは要望・希望があれば落としどころは見つけられるのではないかと考えたので、皆さんと知恵を出し合いながら前向きに考えて、やれないとかではなくて、やはり子どもそれぞれのやりたいを大切にしたい動き、ただ、先生方にも無理はあつてはいけないし、子どもや先生方の健康・安全というところは一番に考えて改革をしていかねばならないのかと捉えました。

大重教育長 今東山委員さんの方からいただいた意見について、事務局の方からはいかがでしょうか。

後藤課長 今の形というものを持続するのが難しいということなので、何らかの形を変えていかないといけないとは思いますが、市内全部の学校が集まってそこで記録会を行うのが今は厳しい状況なので、学校ごとではもちろん、体育が得意な子とかがこういう記録で伸ばして行って、県大会へ出たいという子もいると思うので、学校ごとでそれぞれこの記録会に向けて練

習を重ねていって、県への出場ができるような子については、そこは個人個人で練習というものをやっていくような形になるのかとは思いますが、知恵を絞ってどういう形ができるのかということは今後考えていかなければいけないと思います。

東山委員 例えなのですが、笠岡市のジュニア陸上クラブ、運動を頑張っているお子さんもいらっしゃる、その指導者の方をお願いしたりとかということ、これは夜されているみたいですから、夏場でも少しは涼しいのかなと思います。移動手段等その辺はまだ分かりませんが、何かそういったものを利用してみたりとか、何か考えられるのかとも思います。ただ、大会についても考えなくてはいけないのだけれども、夏場の水泳も学校ではなかなか暑くてできませんとなる、体育館も暑くて運動ができないとなると、子ども達の体力の低下がかなり心配になってきていて、そこをいかに改善するか、解決するかというところが大きな課題、全国的な課題なのではないかと思っています。何かそこも同時に考えていかなければいけないのかなと思います。あとは、県の大会があるのに笠岡市がこういった記録会、練習もなくなりましたと言ったら、他市町はすごくサポートがあるとすれば、この形では無理ですが、笠岡市はそこが欠けてしまうとどうなのかということもあります。水泳記録会も今はないではないですか。そこも水泳が得意なお子さん達、頑張っているお子さんや家庭からは要望の声もあって、先ほど教育長から聞いたのですが、学校で校内での記録で賞状を渡したりしているということで、やはり認めてあげるというのは大事なのかと思います。

大重教育長 現時点において色々課題になっていることをまずはどうクリアしていくかという観点と、先々を見越していった上で、いわゆる地域のスポーツ活動というもののあり方という部分も含めてどういう絵を描いていくのかという部分にも絡んでくる話だと思うので、市としてこういったもののあり方というものを、部活動の地域移行というか地域展開ということも含めて、再度絵を描いていく必要があると思っています。現実的に今の形でこれ続けていくということは、困難な部分はあろうかと思いますが、先ほど、他市の方がいつそのこと6年生を皆連れて行ってやっているという話がありましたが、これは笠岡市においても、議論の中でそういうものも出てきています。その発想はどこから出ているかということ、代表選手だけ行くと、要は教員の役員も出て行って対応しなければいけないけれども、現に多くの子ども達は学校に残っているので、その子ども達の対応も必要だということが出てきている発想なのですね。だから、いつそのこと皆行ってしまえば、行った先で全教員で面倒を見れば良いという話なのです。だ

けれども、選ばれて行っている訳ではないので、そこに参加をするモチベーションという部分が色々なのです。中には運動が得意でない子も無理やり行っているということもあるし、それから生徒指導上の課題という部分もあったりします。みんな連れて行ったは良いけれども、そこで頑張る姿ばかりではなく色々なマイナス面の部分も出てくるので、皆を連れていくという方法については、運営・管理という面ではスマートになるのかもしれないけれども、より高い目標に向けて頑張っていくという点については、それは決してプラスではない部分もあるということで、今回笠岡ではそういう方法を取るの難しいということも議論の中で出てきています。いずれにせよ、子ども達の体力低下という部分については、そこは防いでいかないといけないということはあるので、どのような方法がより良い方法なのかということについては今後の検討課題ということで、一旦陸上記録会については中止していくということで皆さんはよろしいでしょうか。

教育委員 (なし)

(2) 学校規模適正化について (学校教育課)

後藤課長 学校規模適正化計画について、意見交換会についてと学校規模適正化計画の改訂版骨子案について説明します。まず学校規模適正化計画にかかる意見交換会についてですが、10月については金浦地区3ヶ所、それから新吉地区2ヶ所の計5ヶ所で意見交換会を開催しました。11月には4日に金浦公民館で、地域の方を対象に開催しています。11月については8日に神島外中学校区、それから13日に北川小学校区で既に意見交換会を開催しています。来週18日に笠岡西中学校区、19日に大島中学校区、29日に笠岡東中学校区ということで、11月中に島しょ部を除く市内全ての学区で意見交換会を開催する予定にしています。意見や質問が多かったのは、小規模の学校でも良いのではないかということ、それから今後のスケジュールについて、施設一体型の小中一貫校の設置についてはどうなるのか、部活動の地域移行はどうなっていくのか、統合するのは仕方がないのだけれども、その前の交流について、複式学級の解消についてはどうなのか、それから小中一貫教育について、笠岡市の教育についてこれから何を大切にやっていくのか、または市の少子高齢化対策について、定住促進の対策について、財政について等、様々な質問・意見が出ています。その辺についてのお答えを言っているときりがないので、会議録を用意させてもらったのですけれども、ご覧いただけたらと思います。

次に、学校規模適正化計画書の改訂版骨子案をご覧ください。これは今後出す予定の学校規模適正化計画書改訂版の骨組になるものです。この骨

子案について意見を色々とお伺いしながら、年明けには学校規模適正化計画書改訂版を作成し、市民の方々から意見を伺うためにパブリックコメントを行う予定にしています。既に「1」から「4」までは、この定例会や議会、それから地域への意見交換会で示しているものなので、説明は省かせていただきます。「5」に、新たに小中学校の配置計画について、各学校の名前を挙げて示させていただいているので、ここの説明をさせていただきたいと思います。まず中学校については、笠岡東中学校はこの先クラス替えが可能な規模を維持できるということもあり、このまま存続ということです。大島中学校については既にクラス替えが必要な学校規模なので、令和14年度以降において他の学校と統合する方向で検討ということです。笠岡西中学校・金浦中学校・新吉中学校においては、笠岡西中学校が令和16年に単学級が発生、金浦中学校は令和13年に単学級が発生、そして新吉中は既に単学級が発生しているので、これも令和14年度以降に他の学校と統合する方向で検討していきたいと思っています。神島外中学校においては、特認校としてこのまま存続していきます。島しょ部各校については、来年度以降は全て休校になっていきます。小学校についてですが、複式学級が既に発生している学校、または発生した段階で他校と統合するという方向になります。神内小学校が令和11年に複式学級が発生するので、この時期辺りで他校と統合する方向で検討しています。吉田小学校は令和9年、新山小学校は複式学級が既に発生しているのですが、北川小学校は令和8年に複式学級が発生するので、この3校については令和9年度以降で統合を検討していくということになります。陶山小学校については、ここは既に複式学級が発生しているので、早急に統合を検討していくということですが、神島外小学校については特認校ということでこのまま存続、島しょ部の各校については、子どもがいなくなった時点で休校ということになると思います。施設一体型小中一貫教育校の設置については、中学校の統合時に改めて検討していくこととしています。

大重教育長 表面に書かれていることを基にしながら、裏面の「4 学校規模適正化の方針」を作成しており、中学校についてはクラス替えが可能な規模の学校を複数校維持していくという方向、そして、小学校については複式学級の解消に努めるのだけれども、複式学級になるまでは、小学校というのは中学校以上に地元・地域と距離が近くて、密接に連携して教育を行うという利点があるので、できるだけこれを考慮しますという方針を地域の意見交換会で話をしてきています。今までは施設一体型小中一貫校というのが、考え方として前面に出ていたので、ある程度の中学校の学校数を維持しながら、そこに小学校を集めてくるということになり、6つの学園とい

うことでやっていく計画だった訳ですが、先々の児童生徒数が大幅に減っていくということの中で、先ほど言った「4」の中学校のところ、クラス替えが可能な規模の学校を複数校と書いているけれども、現実問題、複数校は何校維持できるのかということです。これは意見交換会でも、我々は必ず言っていますが、今から12年後の令和18年度には、市内の中学生の人数というのは460人になるので、1学年の生徒数は153人という計算になります。153人というのは、1学級40人のクラス定員で考えると、学級数でいうと4学級、つまり1学年4学級の中学校が1校笠岡市内にあつたら足りるという規模感ですよという話をしています。そういう状況の中で、クラス替えが可能な規模の学校を複数校と言うけれども、4学級しかない訳なので、複数校ということになると、それは3つに分けるという発想はそもそもない訳ですね。だから、中学校は2校ですよということを言っているようなものなのです。それに対して、地域の方々がどういった反応だったかということ、そこについては「それはそうだよね」ということで、理解はいただけているということです。中学校が2校まで減ってくるという中で、施設一体型小中一貫校ということになると、小学校は今14校ですが、中学校と同じように2校にするのは、それはさすがにとということになります。だから、小学校についてはできるだけ、複式になるまでは地域に残していくという、中学校と小学校はいわゆる適正化の基本方針の中に定めている基準や方針は元々違っていた訳ですから、小学校の基本方針と中学校の基本方針に忠実に当てはめて考えたらこうなりますという考え方で説明をしているので、この部分に関して、大反対みたいな意見ははっきり言ってほとんどないのです。なので、そういうことをベースにしながら考えていったら、各学校ごとの今後の適正化計画というのは、その矢印に書いてあるような形になるということですね。けれども、小規模特認校の、神島外小・中については小規模校の良さということもあるので、それは残していきましょうということです。この前、神島外中学校にも行って説明をしてきましたが、神外の小中学校が残るということについては「それはありがたい」という反応でした。大島中学校と東中学校・西中学校にはこれから行くので、そこでどういった反応があるかわかりませんが、今まで行っている所については大反対ということはありません。総論はOKけれども地元の学校が具体的にどうなる・こうなるという部分についてはこうしてもらいたいというような話は出てきているという感じです。では、委員の皆様からご質問・ご意見があれば、お願いします。

藤谷委員 今説明いただいた改訂版、内容的にはこれで良いと思います。1つ気に

なったのは「5」に中学校・小学校が年度別で計画表が書いてあるのですが、この中の陶山小学校については既に複式になっていると、一応「令和6年度から令和9年度にかけて統合の方向で検討する」に今はなっていますが、ここは至急に検討を進めていくべきかと思っています。というのが、元々金浦の小中一貫の中で早い時期から統合の話が出ていて、地域の方についてもそこを理解していただいているし、保護者の方についても早く大勢の学校に行きたい、行かせたいという希望がありました。個人的に思うのが、選択肢はそんなにないと思うのです。だから、陶山小学校については早い時期に、例えば城見小学校に統合ができないかと個人的に思っています。色々な問題があるかも分かりませんが、まずはそこで早めに検討を進めていったら良いのではないかと考えています。

後藤課長 陶山小学校については今は完全複式という形で、適正化を進めていかないといけないと思っはいるのですが、複式学級の学校を統合する上で問題があって、今複式学級でやっている子ども達というのは、そのまま違う学校に上がったとすると未履修、まだ学んでいないところがあるので、まずはそこに人を配置して複式を解消して、1年間未履修の部分をなくしていかないといけないという時間が必要になってきます。それをするためには、その前に加配要望をしていかないといけないということになります。それを考えると2年かかっていくのかとは思っています。時期的には、すぐに統合というのは厳しいのですが、一定の時間をかけながら統合に向かっていく、その統合に向かっての時期というものは、陶山小学校と統合する学校が交流する時間を確保できるということもあるので、しっかりそこを地域の方々、それから子ども達とも交流を進めていって、準備を十分した上で統合という形に持っていかうかと思っています。どこかということになると、藤谷委員が言われたように城見小学校かなとは思いますが、そこは地域の方々にもきちんと話をしながら、その合意というものを得られた上で進めていきたいと思っています。

大重教育長 少し補足をさせていただきます。陶山の地域で我々がそのことについてのどのような説明をし、そして地域の方々がどんな反応であったかということですが、施設一体型小中一貫校という部分については、これはもうリセットという形になると説明しています。そうするとどこの部分に戻っていくのかと言うと、元々あった適正化計画には、陶山小学校は令和5年度に城見小学校へ統合ということが書かれているので、そこに戻っていくのでしようねという話は、地元にはしています。参加をされている皆さんは、とにかく早くに城見小学校に統合して欲しいということを多くの方々が言われたので、そういう方向で動いていくのだろうと思っています。だけ

れども、その場に来られなかった方々もおられるので、保護者の方々も含め、来られなかった方々も含めた意思確認ということをしていった上で動いていく必要があると思います。これは、早急にそこをやっていかないといけないと思っています。地元の皆さん方の温度感で言うと、今年度末にもすぐに統合してくれれば良いのにと温度感です。今までずっと待たされてきている、もうくつつくのだろうなと思っていたら、施設一体型小中一貫校という話が出てきたので、またそれで待たされるのかと、でも今回方針が変わって、また待たされるのかということなのです。だから、我々はそこは早急にやっていく必要があると思っています。ただ、今は複式で複数の学年が、複数の学年の内容を一緒に学んでいるということがあるので、それを解消することなく統合すると、未履修というルール違反が出てきますから、加配措置をして、教員の配置をして、複式を分けて学んでいくこととなります。統合の前の年にそういうことをやる、でもそれは、教員の加配措置を受けてそれができる訳ですから、更にもう1つ前の年度に県教委とのやり取りの中で、教員の加配を要望して行って配置をしていくこととなりますから、2年必要だというのはそういうことなのです。だから、最速で言うと令和9年度に統合し、その前の令和7・8年度で今申し上げたようなことをやっていくこととなります。更にはスクールバスを走らせるということになると、それこそどういうルートでスクールバスを走らせるのかと、停留所をどこに設けるのかと、それは保護者の皆さん方から相当色々な意見が出て来ます。それが固まったとしても、スクールバスを運行する会社を確保していかないといけない、更にはその前段階で予算を確保していかないといけないということがあります。予算を確保していくためにはどういうルートでどういう風にバスを走らせるのかということがはっきりしないと、予算規模もはっきりしないということなので、年度を超えてそういうことを複数年かけてやっていくということが必要になってきます。最低でも統合の合意がなされて、間に2年挟んで3年目に統合というのが最速ということで、このような絵を描いているということです。

藤谷委員 色々説明をありがとうございました。今聞いたように、いきなり統合というのはできなくて準備がかかるというのはわかります。だからこそ方向性を早く決めないといけないと思うのです。方向性が決まらないと今の動きはできないと思うので、私が言いたいのは早く方向性を決めた方が良いのではないかと、そうすると準備に入っていけるということで検討をお願いします。

大重教育長 「5」の図の中に書いてある点々の矢印ですが、この期間というのが大

体4年間ぐらいで矢印が引っ張ってあると思います。この4年間というのは、この期間に他校と統合する方向で検討という話なので、この4年間で検討していくという意味ではなくて、この4年間で統合できるように検討するという事です。陶山小学校の場合は令和6年度のところからこの点々の矢印は始まっているので、すぐにでも検討をしないといけないということになります。

藤谷委員 ちなみに、陶山小学校と城見小学校を統合する方向性を決定するのは、どの会議体で決定するのですか。

後藤課長 まずこの骨子案で意見を伺いながら、来年1月・2月辺りで学校規模適正化計画書の改訂版というものを出します。それを、パブリックコメントで皆さんの意見を伺いながら、今年度中にはそれを出させていただくと、その時にはどこどこが統合というところも、はっきり示した形が出る予定にはなっています。

藤谷委員 それを受けて、この教育委員会で決めるのですか。

大重教育長 教育委員会としての意思決定というものは要と思います。

藤谷委員 その次が議会で承認という形になってくるのですか。色々な手続きという順番があると思うので、その辺を見越して準備の方をお願いしたいと思います。

大重教育長 迅速にやっていきたいと思っています。

杉本委員 適正配置計画の方向性（案）について、点線の期間で統合する方向で検討というのは、この点線のところで統合できるようにということなのですね。となると、星マークがあるところが複式が発生する時期なので、上手くいったら複式が発生せずに統合できるというのが一番良い結果になるということですね。

大重教育長 陶山小学校の場合は令和6年度で発生というのではなく、既に複式ですときています。今仰っているのは、例えば吉田小学校とか北川小学校が、現在は複式ではないのだけれども、この星印の時に複式が発生し始めるということなので、統合のタイミングによっては複式になることなく統合できるのではないかという話ですね。

杉本委員 そうです。なので、吉田小学校や北川小学校については、既に始めないといけないということなのですね。

大重教育長 今は、この点々の矢印については少し幅広で設けていますが、我々としては、この年度にこうしてという形で描いていきたいということは思っていますけれども、この資料が、要は骨子案ということで公表されるので、少し幅を持たせたような表現にしているということです。いずれにせよ、星印がもう間近に迫っているということなので、いつの段階で何をどうす

るということについては、早急に検討していかなければならないと思います。だけれども、この前吉田・新山・北川の3地域については1回現地に入っただけなので、1回入って我々の考えを説明して、それできあこしませようということにはなかなかない部分があります。金浦と城見・陶山については7月に1回入って、そしてこの前に2回目入ったので、少し進んだ話が十分できた訳です。この北部3地域についても、年明け1月にもう1回行こうかと思っています。そこで1歩進んだ話をした上で、いつどのようにしていくのかということがよりクリアにイメージしていただけるような形を取っていこうかと思っていますところでは。

杉本委員 かなり無理を強いるようなことかもしれないのですが、星マークがつくよりも更に1年前に点線をスタートすべきなのではないかとも思っています。

大重教育長 実際にはどんなことが起きるかという、複式というのは、1・2年と3・4年と5・6年のグループというものが完全複式と言うのですね。完全複式という状況になると、2年間で2年分の学習を混ぜてやっていくということになるので、子ども達への負担というものがかかってきます。ところが、いきなり完全複式になるかと言ったら、特定の学年のところ、例えば2年生と3年生のところ複式が発生し始め、その次の年はこの2・3年生で発生したものが3・4年生に上がります。その次は4・5年生にというように段階的に上がっていく中で、また複式が他の学年で、今度は1・2年生のところ発生しますというように、発生をしていく時は、割と不規則な動きで発生していくのです。完全複式になっていったらA年度・B年度という形で教育過程を組むことができるのですが、発生し始めるところというのはA年度・B年度みたいな綺麗な形には当然いかないので、その期間というのは県の方からの加配も得ていきながら複式を解消する形でやっていくということが可能なのです。だから、星印のところから完全に複式になっていくのかと言うと、星印以降の向こう何年間かは加配措置を得ながら、複式でない形で時間稼ぎをするということができるということなのです。それともう1つは、この期間に学校を統合するという点々の矢印が、令和6年度に迫れば迫るほど「これはすぐに話が始まるんだ」と驚かれます。北部地域に入らせていただいた時に、「もう割と迫っているじゃないか」、「こんな状況だったのか」、「知らなかった」、でも「よく教えてくれてありがとう」、そういうこともあつたりしました。これが本当に令和7年度のところから引くということになると、「大事じゃないか」と、保護者の皆さん方はこういう説明をすると何を考えられるかと言うと、我が子が今は例えば3歳とか4歳だと、この後小学校に上がっ

東山委員　　もしも私が陶山小学校の保護者だったら、保護者で署名を集めて「お願いします」という勢いかなというぐらい、皆さんが本当に訴えられていた地域なので、何か良い方法がないのかと感じます。

大重教育長　それでは、他の皆さん方はいかがですか。

教育委員　　(なし)

(3) 第20回木山捷平文学選奨作品募集結果について (生涯学習課)

古宮課長　　資料協3-1をご覧ください。今年度の第20回木山捷平文学選奨の募集結果です。部門は6部門で、括弧内は昨年度の数字です。まず一番上、短編小説の部門、令和6年度の応募数は244作品で、過去の応募数と比べてやや少ない傾向が見られます。具体的には、前年の令和5年度267作品、また過去20年間の平均が256作品なので、それと比較しても少なくなっているようではあります。ただ、近年ではやや減少傾向が続いているようなのですが、これまでの中で、平成29年度の195作品という状況を除けば、ここ20年間の応募数は平均を中心に上下しているものの、大きな変動は見られないようです。現在、予備選考委員2名の方で各自10作品の絞り込みが行われており、今月の27日に予備選考委員会、1月21日に本選考会というスケジュールで進めていくことにしています。続いて、随筆・詩・短歌・俳句・川柳の部門です。各部門の応募状況の傾向を見ました。随筆部門では応募が若干増加、詩部門は小中学生の減がありました。一般の部は大幅増となっています。短歌部門については、小中学生・高校生部門が減、一般の部が若干増、俳句・川柳部門は小学生・高校生が減、中学生・一般の部が増となっています。高校生の部門で変動が色々出てきているのは、今年度からカリキュラムの変更があったということで、状況が昨年度と変わっていることが影響しているようです。これらの部門においても、それぞれの選考委員で順次審査を進めていただいています。来年の1月15日に結果発表の予定です。全体部門の表彰式は、3月2日にギャラクシーホールにて予定をしています。

大重教育長　それでは、委員の皆様からご質問・ご意見があれば、お願いします。

教育委員　　(なし)

(4) 笠岡市中央公民館「令和6年度『まなびの発表会』～集まれ つながれ 学びの輪～」の開催について (生涯学習課)

古宮課長　　資料協4-1から4-3をご覧ください。この学びの発表会は、中央公民館の講座生の作品発表及び舞台発表を行うもので、講座の紹介と発表者、来場者による相互の学び合いを通して、生涯学習の輪を広げることを

目的として実施しています。今年度会場変更があり、中央公民館3階・4階に加えて笠岡小学校の体育館をお借りして開催する予定としています。時間が許しましたら、来場いただけたらと思っています。

大重教育長 それでは、委員の皆様からご質問・ご意見があれば、お願いします。
教育委員 (なし)

(5) 笠岡市立図書館への国際ソロプチミスト笠岡からの寄附について (生涯学習課)

古宮課長 資料協5-1から5-3をご覧ください。10月23日に国際ソロプチミスト笠岡から、読書推進のための図書購入に役立てていただきたいということで、寄附額5万円を図書館に寄附いただきました。この使途としては、児童書の充実のために活用させていただく予定です。同団体からは長年図書館へ寄贈いただいております。現在収蔵している冊数として約1,000冊を超えています。昨年度は子ども図書館内に国際ソロプチミスト笠岡寄贈図書コーナーを設けまして、今回の図書購入後はこのコーナーへ置かせていただく予定としています。

大重教育長 それでは、委員の皆様からご質問・ご意見があれば、お願いします。
教育委員 (なし)

(6) こども図書館開館15周年記念「としょかんまつり」の開催結果について

(生涯学習課)

古宮課長 資料協6-1から6-3をご覧ください。10月26日に開催した図書館祭です。ボランティアの方々、これまでの関係性から協力をくださった方々のおかげもあり、当日は501人と多くの方に来館いただきました。今年度4月から10月までの土曜日の平均来館者が約360人なので、職員の感触としては、普段の利用者という方よりもこの祭りを目当てにという来館者が多くおられたようです。

大重教育長 それでは、委員の皆様からご質問・ご意見があれば、お願いします。

東山委員 私も参加させていただきました。市内の家族連れがすごく多くて賑わっていたと思うのですが、たまたま話した方が福山から来られていて、「福山にいっぱい図書館があるのに」とお聞きしたら、「笠岡市の図書館がすごく色々子ども向けのイベントもしてくれているので、わざわざ来ているのです。ファンなのです。」ということをおっしゃっていたので、誇らしいなと思いました。引き続き、他市町からも利用していただける図書館であって欲しいなと思います。高梁川流域の7市町村で連携されていたりするのではないですか。そこら辺をもう少しホームページでも打ち出しても良いのかなと思います。一応載ってはいるのですが、井原市なんかはすごく

上手に載せられていたので、参考にされても良いのかなということを感じました。福山市の図書館も利用できますよね。そういったところをもう少しアピールされると良いのかなと思いました。

古宮課長 ありがたい意見をいただいたので、職員とその辺りも報告と併せて相談させていただきたいと思います。

大重教育長 その他の委員さん方はいかがですか。

教育委員 (なし)

(7)「冬のおはなし玉手箱」の開催について(生涯学習課)

古宮課長 資料協7-1をご覧ください。こちらは図書館の2階で毎年開催の幼児・児童及び保護者向けのイベントです。昨年度も34名の参加者があり、非常に好評でした。昨年も大人だけの参加の方もおられたので、今回も大人だけの参加でも大歓迎です。こちらも時間があればぜひお立ち寄りいただければと思います。

大重教育長 それでは、委員の皆様からご質問・ご意見があれば、お願いします。

教育委員 (なし)

(8) 特別展「日本画家 入江西一郎のどうぶつ画」の開催について(生涯学習課)

(9)「竹喬祭」無料開館日について(生涯学習課)

古宮課長 資料協8-1をご覧ください。本日カラーのチラシも用意させていただいています。現代日本画を代表する動物画家、入江西一郎の展覧会を開催させていただきます。非常に色々な方から好評で、単純化した構図、鮮やかな色彩で、愛らしい動物画ということで、チラシも入場券も「欲しい」という声が非常に高いです。今回はチラシで案内もしていますが、裏面に各種のイベントの案内も併せてさせていただいています。ちょうど今週の11月17日(日)、この日に竹喬の誕生日11月20日に合わせた誕生祭として無料開館にしています。茶道連盟の協力を得て茶会も開催するので、よろしければ展示を見に来ていただくのと併せて、お茶会も寄っていただければと思います。

大重教育長 委員の皆様からご質問・ご意見があれば、お願いします。

東山委員 ハガキをいつも売られているではないですか。竹喬のももちろんだけれども、特別展のものも今回もあるのですか。あると多分売れるのではないかと思います。

古宮課長 確認してみるのですが、明日から開催で、多分まだ準備中です。

東山委員 あると私も毎回買って帰っています。

古宮課長 これだけでもかなり反響があります。

東山委員　　すごく素敵だなと思って、お子さんも行きたくなるかなと思いました。
古宮課長　　そういう声が多いみたいです。
東山委員　　勧めやすいなと私も思いました。
大重教育長　　ぜひ足を運んでいただけたらと思います。他の皆さん方はよろしいですか。
教育委員　　（なし）

(10) その他

- 岡山シーガルズ公式戦について（スポーツ推進課）
- 第38回カブトガニ駅伝大会について（スポーツ推進課）

土屋課長　　本日配布のチラシをご覧ください。まず、岡山シーガルズですが、今年度も公式戦を笠岡総合体育館の方で開催させていただきます。SVリーグということで今年からリーグが変わっていますが、12月の7・8日の土日にヴィクトリーナ姫路との公式戦を開催することとしています。昨日市役所庁舎内で物販をして、ファイルやボールペン等の購入に協力いただいています。時間がある方はぜひ来場いただければと思います。

それから、第38回のカブトガニ駅伝大会ですが、教育委員の皆さんには、当日の出席依頼を12月2日までとさせていただきます。また出欠の報告をよろしくお願いします。

大重教育長　　それでは、委員の皆様からご質問・ご意見があれば、お願いします。
教育委員　　（なし）

- 津雲貝塚追加指定記念講演について（生涯学習課）
- かぶとがに祭りについて（生涯学習課）
- 自習室の利用状況について（生涯学習課）

古宮課長　　津雲貝塚が追加指定をされた部分があり、記念講演を予定しています。12月7日（土）に市民会館で行う予定にしています。非常に特徴的な縄文式土器などの写真もあります。参加を受付中なので、よろしければお声がけください。

10月27日にカブトガニ博物館でかぶとがに祭を開催させていただきました。非常に多くの方に来ていただいて、ホームページに開催結果も載せさせていただいており、1,732名の方に来館をいただきました。何から何まで中学生・高校生と一緒に手作りのお祭りで、来られた方からも、中高生のワークショップや発表が一番人気だったということでした。子ども達からも「やってよかった」と、「非常にやりがいがあ

った」という声をいただいています。

9月の定例会で、中央公民館で自習室を始めるといことをお知らせさせていただいたのですが、10月から開催して1か月経過したので、利用状況を報告させていただきます。利用状況ですが、10月には76名の利用がありました。研修室と美術工芸室の2部屋を使っていたのですが、大体毎週3日・4日とか、日によっては2部屋とも使うという状況で、よく夕方になると高校生の方が寄ってくださるような状況になっています。先日は中学生も寄ってくださったようで、公民館としても今後も続けていきたいと思っています。

大重教育長 それでは、委員の皆様からご質問・ご意見があれば、お願いします。

東山委員 公民館の主事さんにこの話を聞きました。LINEなど色々な手段で、色々な子に宣伝もしてくれているということも聞いたので、居場所としてすごく大切なのかと思います。私は子ども子育て推進会議に出させていただいて、子どもの居場所をとにかく大事に考えましょうということも打ち出されています。その1つとして大事にさせていただきたいと感じました。

古宮課長 市内の3つの関係者でやっていて、図書館と市民活動支援センターと中央公民館とがそれぞれ連携して、「あそこが使えるよ」等、情報発信も一緒にやったりということで進めているので、どちらかでそういう話を聞かれたら、ぜひ来てくださると宣伝していただければありがたいです。

東山委員 下の方とかに、何かお知らせを出されたらどうなのですか。

古宮課長 下というのは実はひっそりあるのです。

東山委員 それか高校にもポスターとかを貼られるとかはどうなのですか。

古宮課長 実は高校生へは一括で、毎月インスタの方で定期的に流していて、あとは各学校にも連絡が行くようにと、市民活動支援センターと一緒にやっています。

東山委員 もう1点。この津雲貝塚は、生涯学習課が作られたクリアファイルがあるではないですか。すごく可愛いので、もしかしたら置いて販売されたら、売れるかもしれないのでお願いします。

古宮課長 ちょっと話をしてみます。

大重教育長 色々良いアイデアをありがとうございます。生かさせていただきたいと思います。他に皆さん方から何かありますでしょうか。

教育委員 (なし)

大重教育長 それでは、次回のことについては記載のとおりということで。総合教

育会議のことも、何かここでご説明とかがありますか。

後藤課長 今日、説明させていただいた学校規模適正化計画書の改定版の骨子案について総合教育会議の中で提案させていただこうかと思っています。

大重教育長 日にちと時間は、皆さん方には連絡が行っているということですね。

藤代課長補佐 11月20日の17時半から、市長室で開催されます。よろしくお願ひします。

大重教育長 少し遅い時間になりますが、よろしくお願ひします。次回の定例会は12月20日（金）の15時からということで、こちらの教育委員会会議室で行います。それでは、長時間にわたってありがとうございました。